

## <白金標準、下落が止まれば 4400 円へ向けた値動きの期待・・・>



(出所：オアシス)

パラジウム価格の低下やアイオワ州党員集会でトランプ前大統領が勝利し、中国の株価が貿易戦争を材料に売られると、NY 白金は昨年 12 月以来の 900 ドル割れを試している。しかし年始の 1015 ドルから 132.8 ドルの下落を行った事から、900 ドル割れでは買い戻しを強めており、下げ止まる確率が高まりを見せている。

特に円建ての白金標準先物は一時 4206 円まで下値を試し、過去の値動きで捉えた下値付近まで下げているが、翌日には一夜にして 6 日間の下落幅を短時間で取り返している。

またドイツ銀行のリサーチ金属・鉱業アナリストは 10 日に発表した商品展望で、PGM 市場で需給動向はパラジウムよりプラチナが有利であり、自動車触媒の需要トレンドが改善し、2025 年に向けてプラチナ価格はさらに上昇すると記載されている。

そのため白金標準先物では、4200 円台は底値に近く、過去の値動きを参考にすると 4400 円へ向けた戻りの値動きが強まると思われ、4300 円を下回るタイミングでは 3 月 6 日に発表される WPIC 第 4 四半期 PGM 需給報告に向けてロングポジション保持がベストと思える。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が切り上げ、**シグナル** は下げている。RCI は **短期** が上昇し、**長期** は切り下げるなど、基調の転換を示唆するクロスが発生するなど、強気の対応が妥当と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,500,000 円(2024 年 1 月 22 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 1 月 22 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>